

大鹿スケッチ

— 第33号 —

2013年 7月

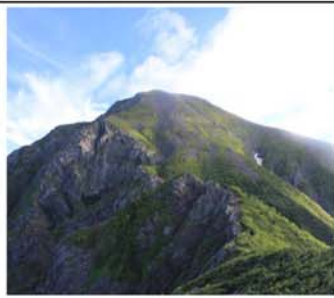
〈 発信者 〉
前満島 くみ

〈 提供 〉
旅舎 右馬允

飯田市ではクマゼミが鳴いているらしい。これまでの分布では、関東地方南部以西の本州、四国、九州（八重山諸島（奄美大島を除く））とされているが、近年分布を広げている種類のひとつだ。ついにこの伊那谷まで分布を広げてきたのだろうか。伊那谷では昨年、クマゼミの鳴き声を聞いたという報告が寄せられていたが、抜けがらや標本をもって「確認」とするため、まだ正確な情報とされていない。今年は特に派手に鳴いているようなの抜けがらを見つけて出す人もいられるかも知れない。「昔はこんな鳴き声聞かなかったな」と話す近所の人たちの会話から私たちを取り巻く環境の変化を垣間見ることもあるのだ。季節ごと「風物詩」といわれているモノを追ってみても面白いかもしれない。

出典「日本超古代地名解」九時過ぎ。午後三時までは聖による日本の地名は、アイ平までつきたいので少し先を又語と日本語、チベット語急ぎながら、しかし荷物は三泊でいたい読み解けるよう四日分の重さなのでそれ相応です。例えば「聖岳」はひいに足を運ばせました。登山道は一番、ひ、ふ、みの「ひ」。赤色チャートが続いていて旺じい大きい。りい山のチベツ盛な植物とのコントラストがト語のようです。遠山合や大印象的でした。聖平小屋三時二鹿村は、チベット系の人が故郷を懐かしんで、移り住んだ怯みましたが初めての一人テところなのかもしれません。ントを張り、快適な夜を過ごしもちろん天然資源が豊富にました。翌二十二日、五時四十分あり住みやすいというところから解放された足は思いのほろもあるでしょうが。そんなか軽やかです。話には塩見岳の聖岳から光岳への縦走計画を立て、慣行しました。

登山口の上村便ガ島までは遠山林道を行きますが、安悟をしていきましたが、気持ちよ全のため時間通行止めになく登れました。聞くと聖に向かっています。家を早めになく途中で風が強いと引き返すしたが結局ゲートが八時半人も多いのだそう。爽やかな稜まで開かず、登り始めたのは線の風に感じましたがやはり



●写真：小聖岳から聖岳を臨む

過酷な山の一面も存在するのです。六時50分聖岳登頂。日本最南端の3000メートル級。この山塊のおおもとが、海洋プレートに乗って日本に辿り着いた深海底のチャートと、陸上から流れ込んだ泥とが海溝近くでもみくちやになりながら、押し付けられてきたもので、海底火山の溶岩やサンゴ礁も混じっています。そんな日本列島誕生そのままを感じながら今日の目的地、茶臼小屋を目指すのでした。(つづく)

～ 8月のイベント情報 ～

チケット予約 受付中 !!

たまいやすゆき演奏会

★鹿村 右馬允 (うまのじょう) <http://www.umano.ju.com>

2013/8/25(日) お食事11:30より 演奏会13:30より
料金2,000円(お食事付き)

※定20名様 「お食事付き」でお越しください
お問合せ・ご予約はこちらまで TEL 080-5145-5342

■「たまいやすゆき演奏会@右馬允」

- ・日にち 8月25日(日)
 - ・開場 11:30 (お食事スタート)・開演 13:30(予定)
 - ・料金 2000円(お食事込み)
- ※20名限定 ※雨天の場合は2階での演奏予定
- チケット予約先：080-5145-5342 (たまい)
 - 予約受付は8月22日まで行いますが、定員になり次第締め切らせていただきます。
- <たまい やすゆき> 泰阜村在住。飯田下伊那を中心に全国各地でライブ活動中。カフェや公民館など、お客さんにより近い場所での演奏をモットーとし、田舎で培った感性をメロディに乗せて歌います。 <http://www.youtube.com/user/primchord>

大鹿 HeatBeat

～大鹿の人々～ 第29回
紙谷 正 さん (87)



このコーナーでは、季節ごとの風景と共に大鹿人の生活を紹介いたします。淡々とした日々の中に熱く響く「鼓動」をお届けします。



日の光を通すとお蚕様の線での生活が濃いものとなり、体がさらに艶色に輝く。ぶりに成長したお蚕さまは上族室にはい上がって繭をつくっていきます。2,3日前に雨に降られて最後の桑づけが上手くいきませんでした。したが、少し遅れて無事この季節を迎えています。紙谷さんの畑では、しし唐が最盛期。お蚕さまのウンチで育ったしし唐はピカピカのつやと美味しさ。なすやカボチャも育てていますが、先日猿に持っていかれてしまいました。鳥獣とのせめぎ合いの中、夏野菜をしっかりと頂き朝は五時から作業を始めます。紙谷さんです。お盆頃におやといなのでそれまで小休止。日頃高めておきたい。

山行きは、もしもの時のためにできるだけ複数で行った方がいいと思われが、今回は単独となった。こういう仕事をしていると一般の方と休日を含めると調節するのは難しい、日程調節をしようという経験が今までになかったわけではない。よって今回の単独縦走は気ままで、とても心地よく感じた。もしもの時のデメリットはあるものの、道は覚えるし、どの山が見えるかなど地図で自分で調べるのでその分、稜